

レンタル
始めました

熱中症対策に製氷機を!!



IM-45M

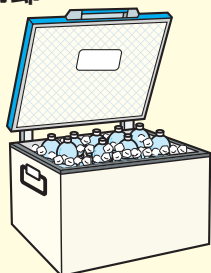
IM-75M

	IM-45M	IM-75M
製氷能力	約45kg/日 (室温20℃水温15℃)	約72kg/日 (室温20℃水温15℃)
貯氷量	最大ストック量約23kg	最大ストック量約50kg
電源	単相100V/消費電力270W	単相100V/消費電力380W
外形寸法	W630×D450×H800mm	W700×D525×H1,200mm
製品質量	45kg	71kg

製氷機があれば、こんな時役に立ちます

●水分補給用ドリンクの冷却

純度の高いキューブアイスなら直接ドリンクに入れていただけます。大量に氷ができるので、たくさんのドリンクを一度に冷却できます。



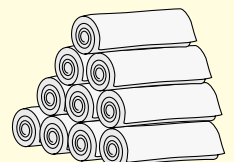
●応急手当の際の氷嚢に

必要なときに氷がすばやく取り出せます。



●おしぼりの冷却に

休憩時にうれしい冷却!



※氷200g (かき氷約1杯) で、体温低下0.5℃/体重50kg

熱中症を防ぐには

直射日光により高温環境となる屋外作業所などでは、熱中症を予防するため以下の事項を守ってください。

(1) 作業環境の面から

- 日除けや通風をよくするための設備を設置し、作業中は適宜散水する。
- 水分、塩分の補給のためのスポーツドリンクなどや身体を適度に冷やすことのできる氷、冷たいおしぼりなどの物品などを備え付ける。
- 日陰などの涼しい場所に休憩場所を確保する。
- 作業中の暑熱環境の変化がわかるよう、熱中症指標計等によりWBGT測定を行う。

(3) 健康の面から

- 健康診断結果などにより作業者の健康状態をあらかじめ把握しておく。
- 作業開始前はもちろん、作業中も巡視などにより作業者の健康状態を確認する。

暑熱環境のリスクを評価する場合には、気温に加え、湿度、風速、輻射熱を考慮して総合的に行う必要があり、「WBGT」は、基本的温熱諸要素を総合している有効な手段と考えられています。その活用については、平成17年7月29日付け基安発第0729001号通達「熱中症の予防対策におけるWBGTの活用について」により示されています。

(2) 作業の面から

- 十分な休憩時間や作業休止時間を確保する。
- 作業服は吸湿性、通気性の良いもの、帽子は通気性の良いものを着用する。



東京労働局ホームページより抜粋

万一熱中症になってしまった時

◆ 熱中症の重症度と症状および対処法

分類 (重症度)	対応する 従来定義	症 状	対 処 法
I 度 (軽度)	熱痙攣 熱失神	四肢や腹筋などに痛みをともなった痙攣（こむら返り） 立ちくらみ（数秒間くらいの失神）	食塩を含んだ水分（スポーツドリンクなど）の補給で、通常はすみやかに回復
II 度 (中等度)	熱疲労	強い疲労感、めまい、頭重感、嘔気、嘔吐、下痢、体温上昇など幾つかの症状が重なり合う。 ● 放置又は、誤った判断により重症化しⅢ度へ移行する危険性を伴う。	1度の対応に加え、 アイスパック で腋の下などの太い動脈部位を 冷却 する。 吐き気や嘔吐で経口的に水分補給ができない場合は、医療機関で点滴を。 Ⅲ度への悪化も考え、回復しても医療機関で受診したほうが良い。
III 度 (重度)	熱射病	意識障害、おかしな言動や行動、過呼吸、ショック症状などがⅡ度の症状に重なり合う。 深部体温（直腸温）39℃以上 ● 重篤で血液が凝固し、多臓器不全で死亡する危険が高い	死亡する可能性の高い緊急事態。 体を 冷却 しながら、一刻も早く医療機関（専門機関が望ましい）へ運ぶ。 いかに早く体温を下げ意識を回復させるかが生命予後を左右するため現場での救急処置が重要

栃木産業保健推進センターホームページより抜粋